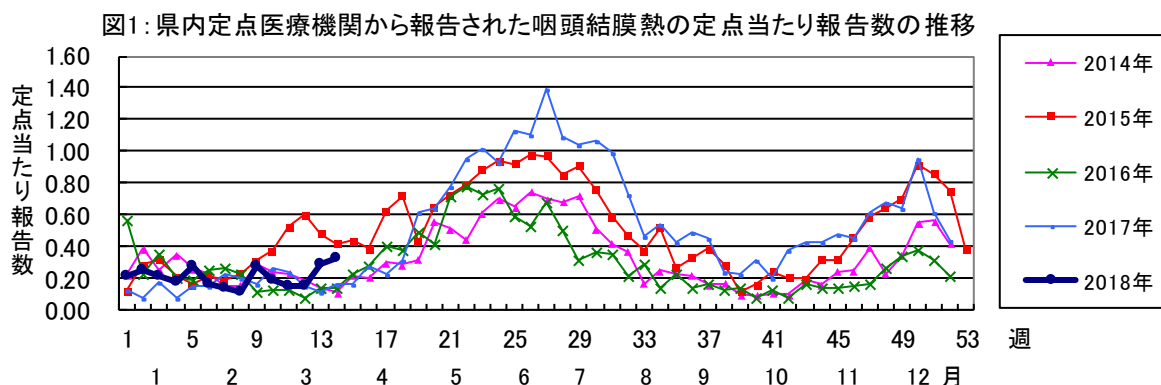


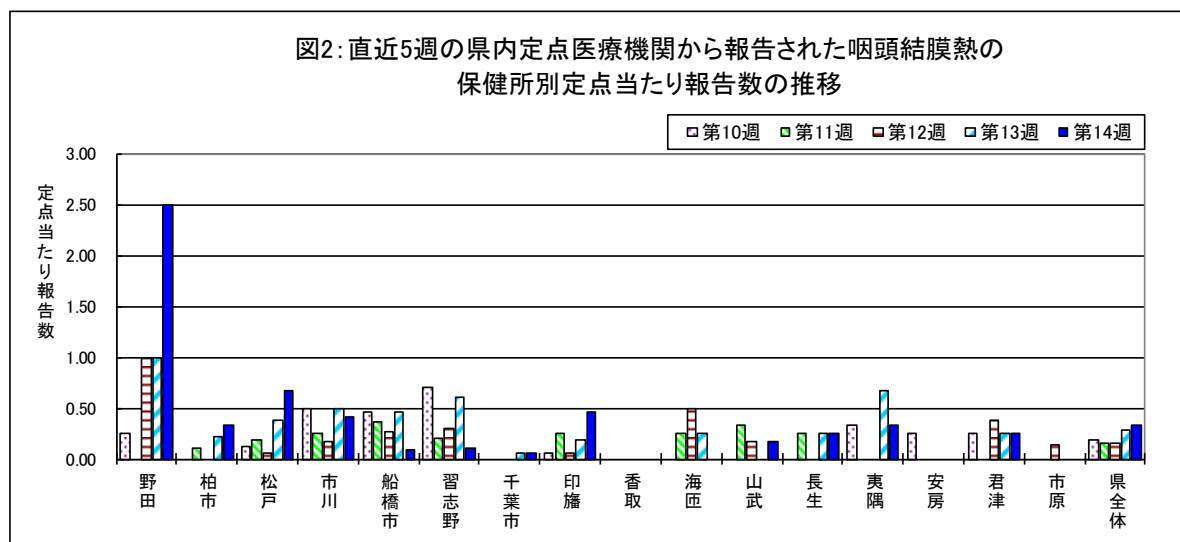
【今週の注目疾患】

【咽頭結膜熱】

2018年第14週に県内定点医療機関から報告された咽頭結膜熱（pharyngoconjunctival fever, PCF）の定点当たり報告数は定点当たり0.33（人）であった。前週（定点当たり0.29）より増加し、また過去同時期と比較して近年では2015年に次いで報告数の多い状態で推移している（図1）。例年の7月前後のピークに向けて今後徐々に報告が増加することも予想され、今後の動向が注視される。



県内16保健所管内において、特に県北西部（野田、松戸、柏市）地域で、ここ直近5週において報告の増加が見られている（図2）。第14週に報告された43例について、患者年齢別では1歳（10例）が最も多く、次いで3歳（6例）、4歳（5例）であった。0歳（4例）の報告については、いずれも6か月～1歳未満であった。成人（20歳以上）例は2例の報告があった。



咽頭結膜熱は原因となるアデノウイルス（3型や7型など）に感染後、5～7日の潜伏期を経て、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、羞明、流涙、眼脂などの症状が出現する。症状は3～5日間程度持続し、永続的な障害を残すことは通常ない。生後14日以内の新生児に感染した場合は全身性感染を起こし、重症化することが報告されている。感染経路は、通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染である。プールを介した場合には、汚染した水から結膜へ

の直接侵入と考えられている。特異的治療法はなく、対症療法が中心となる。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要になることもある。普及するワクチンはなく、予防法としては感染者との密接な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を励行することなどである。消毒法に関しては、逆性石鹼、イソプロパノールには抵抗性なので注意を要する。

参考・引用

国立感染症研究所 咽頭結膜熱とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/adeno-pfc/392-encyclopedia/323-pcf-intro.html>

国立感染症研究所 アデノウイルスの血清型から遺伝型へ：型別と同定法

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/allarticles/surveillance/2409-iasr/related-articles/related-articles-449/7374-449r01.html>